

5月21日(木)→6月2日(火) (いずれも最終日は午後4時閉場)

せい せい かい 青晴会 日本画展

現代日本画壇で、今、成長目覚ましく、最も注目されている女流画家たちが、互いに刺激しあい、成長する場としているグループ展です。今回も意欲的に挑戦され、精魂こめて取り組まれた新作の数々をご発表いただきます。

出品作家
絹谷香菜子 佐竹 佳奈 諏訪 智美 染谷 香理
田中 裕子 中村 祐子 新川 美湖 宝居 智子
森 桃子 吉岡 佐知

(敬称略・50音順)



吉岡佐知「果実」(10号P)

●ギャラリーNEXT

きょう えん 美の競演

本展は、同時代に活躍されているアーティスト達が、自らの世界観を構築し、風景・静物・人物をモチーフに卓越した技を競いあい、共鳴しあう展覧会です。日本画の輝きや洋画のマチエールなど、各作家の「美の表現」をぜひこの機会にご高覧賜りますようお願い申し上げます。

櫻井孝美「富嶽・暁」(3号F)



6月3日(水)→9日(火) (いずれも最終日は午後4時閉場)

かね しげ まこと 金重 愨 作陶展

先人の教えを頑なに守ろうとしていた若いころこの年になってやっと自分の足で歩けるようになってきたのかなと思います

金重 愨



「信楽茶盞」(11.0×11.0×高さ10.0cm)

なか の じゅん や 中野 淳也 個展 - 祈り -

高島屋大阪店で三回目となる今回の個展は「祈り」をテーマに地元の奈良の風景と仏像画を中心に展示いたします。長い年月積み重ねられてきた人々の祈りの歴史を感じられる内容になればと思います。

中野 淳也



「雫」(4号F)

●ギャラリーNEXT

いわ さき えり 岩崎 絵里 展 - 小さな光、小さな夜 -

これまで、人物を主な制作の題材としてまいりました。特にこの10年は、子供達を題材としています。彼らの持つキラキラした光、時として加減や容赦のない毒のような「何か」にひかれ、それらを自分なりの表現で描いてまいりました。この機会にご高覧ください。 岩崎 絵里



「Soleil」(6号M)

6月10日(水)→16日(火) (いずれも最終日は午後4時閉場)

くの かず ひろ 久野 和洋 展 KUNO KAZUHIRO

「表現対象との出会いは、自分自身との出会いでもある」。そのように語られる先生の4年ぶりの個展です。近年は歴史のしみ込んだ日本の地の風景が主題となり、木々の陰影や語りかけるように微風にゆれる野の花など、生命を愛しむ筆致が一層冴えわたっています。そのやわらかな情景は、身近な静物画においても同様の絵画思考によって生みだされています。大作から小品まで、新作を一堂に発表いたします。



「地の風景・静かな朝」(80号S)

か とう けい ざん 加藤 溪山 青瓷展

皆様にはお変わりなくお過ごしのことと拝察申しあげます。この度、大阪高島屋に於きまして青瓷展を開催させていただきます。陶芸を始めて五十年の節目の年にあたります。御多忙中とは存じあげますが何卒、会場にお越しいただきご高覧いただきますようお願い申し上げます。

加藤 溪山



「天龍寺青瓷耳付花生」(15.0×14.0×高さ23.0cm)

●ギャラリーNEXT

さか もと 阪本 トクロウ - 白 -

日本美術において連綿と続いてきた「余白」という美意識と、画面から受ける「ポップアート」的な印象の狭間から立ち上ってくるリアルさは観る者を、静かに絵のなかへ引き寄せていきます。静謐な作品の数々をご高覧賜りますようご案内申し上げます。



「白」(53×53cm / アクリル・高知麻紙)

6月17日(水)→23日(火) (いずれも最終日は午後4時閉場)

よ さ の あき こ げん そ う 与謝野晶子幻想~百選会から広がる美と造形展

呉服催事「百選会」において、約20年間顧問として関わった歌人と謝野晶子が、公募されたきもの・帯のデザインの入選作を歌った約400首にも上る詩歌。その詩歌の中から選び出した作品をもとに、書家により言葉の視覚的美学を表出させるとともに、詩歌に秘められた言語的美意識により創造された立体造形作品の数々をぜひご高覧ください。

〈出品予定作家〉

彫刻：小島 久典 澄川 喜一 土屋 仁応 橋本堅太郎 深井 隆吉水 快閑
工芸：三田村有純 宮田 亮平 野口 洋子
書：池田 桂鳳 井茂 圭洞 石飛 博光 黒田 賢一
下谷 洋子 高木 厚人 土橋 靖子 吉川美恵子

(敬称略・50音順)

襲名10周年記念 とく だ や そ き ち 四代 徳田 八十吉 展

この度襲名10周年を迎えました。徳田の色と技を継承し、四代としての独自の道を追求すべくここまでやってこられましたのも一重に多くの皆様のお励ましのお陰と感謝致しております。本展では、三代が使わなかった赤などの色を使った新作を出品致します。ご高覧賜りますれば幸甚です。

四代 徳田 八十吉



「彩釉壺・猩々」(径13.0×高さ27.0cm)

●ギャラリーNEXT

まつ おか あゆむ 松岡 歩 展 - 生命のまなざし -

ライオン・シロクマ・カバ・アルパカなど、表情豊かな動物たちをメインに新作を展示いたします。日本画の王道を歩み注目を集める気鋭画家・松岡歩先生の魅力溢れる作品を、この機会に是非ご高覧くださいますようご案内申し上げます。



「向」(20号)

6月24日(水)→30日(火) (いずれも最終日は午後4時閉場)

わ だ とう ざん 琴浦窯 和田 桐山 展

2020年(令和2年)は、琴浦窯 開窯110年、八ヶ岳大泉窯 開窯20年の年となります。記念すべき年に、高島屋大阪店にて3度目の作品展を開催させていただくこととなりました。截金を焼き物

に応用したいとの思いから近年取り組み始め、色絵とのコラボができるようになってまいりました。色絵截金として作品作りに生かしてまいりたいと考えております。ご高覧いただければ幸いに存じます。

和田 桐山



「色絵截金波茶碗」(径13.0×高さ8.0cm)

お ざわ かず まさ 小澤 一正 展

関西の写実絵画を代表する小澤一正先生の個展も今展で12回を迎えます。1948年大阪に生まれ、高校時代から画家を目指し、独学で学んでこられました。写実とは、「現在のモチーフを構成し表現すること」という考えのもと、宙に浮かぶ果実、卓上から落ちる一瞬の時、ありふれた日常の中に潜む不安定さを描いておられます。雀・猫・果実・花といった緻密な画面の新作をぜひご高覧ください。

「日常の静物(椿)」(SM)



●ギャラリーNEXT

ばん ど れ い こ 伴戸 玲伊子 展 shine through

輝き、瞬き、包みこむ。光さす瞬間を捉えた作品を展示いたします。花や風景の日本画、団扇などをご高覧ください。

伴戸 玲伊子

「なつかしい夢」(50号S)

